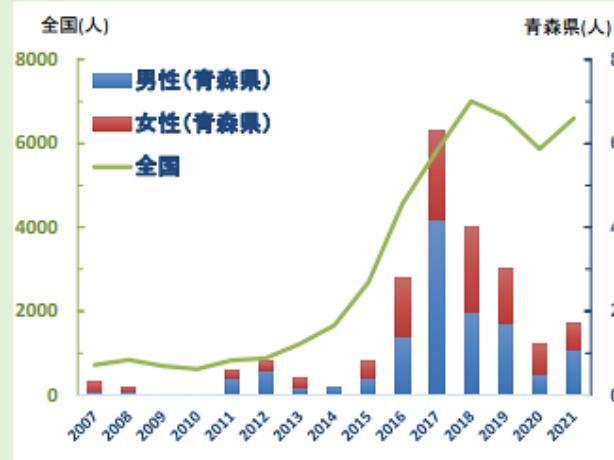


12月 ICT ニュース②

2021年12月 院内感染対策委員会

梅毒(五類感染症 全数把握)



図：青森県及び全国における梅毒患者年間報告数推移 (2007年～2021年第46週)

青森県では、梅毒患者年間報告数が 2017 年をピークに 2018 年以降減少傾向にありましたが、**2021 年には増加に転じています**。また、全国的に増加しています(図)。

参考・引用：青森県感染症発生情報より



病原体	梅毒トレポネーマという病原菌の感染によって生じる性感染症である。
潜伏期間	約1か月。症状が早遅いは個人差がある。
症状	第1期:感染後約1か月で感染した場所(性器、肛(こう)門、口など)に、できもの、しこり、ただれなどができる。治療しなくても数週間で症状は消える。 第2期:感染後3か月程度経つと、手のひらや足の裏など全身に発疹ができる。治療しなくても、数週間?数か月で症状は消える。 潜伏梅毒:症状がないまま何年も経過することがあるが、皮膚や内臓で病気は静かに進んでいる。 神経梅毒:数年～数10年後に、心臓、血管、神経の異常が現れることがある。
検査	血液検査で診断。検査は感染したと思われるときから4週間以上経過してから受けることが必要。
治療	抗菌薬が有効。菌を死滅させることはできても、臓器などに生じた障害を元に戻すことはできない。早期の薬物治療で完治が可能。しかし、治療しないと病原菌が体内に残り、長期間経過すると重大な合併症を引き起こすことがある。さらに、終生免疫を獲得しない感染症であり、完治しても感染を繰り返すことがあるため、再感染の予防が必要。 パートナーも検査を受け、感染していたら治療することが重要である。
感染経路	菌を排出している感染者との粘膜や皮膚の接触を伴う性行為などにより皮膚や粘膜が直接接触することによって感染する場合と、罹患した母体から胎盤を通じて胎児が感染する場合(先天梅毒)がある。妊婦の感染は早産や死産、胎児の重篤な異常につながる可能性があるため特に注意が必要。
免疫	免疫はできないので、何度も感染する。

*梅毒は HIV の感染リスクを高める可能性があります。

*感染の可能性がある人は早めに医療機関を受診し、早期発見・早期治療に努めることが重要です。